



表紙写真の坂田万典さん（39）は、多良良支所管内でラジオオラス13号を栽培する若手生産者です。JA管内では高齢化から生産者数が減少し、数年前の13軒から9軒へ減少しました。しかし、坂田さんをはじめ若手生産者が産地を牽引し、生産数は15倍の約30万球に増加しています。ラジオオラスの生産には輸入球を利用しており、その確保は世界情勢の影響を受けやすく、入手に苦労する年もあります。このため球根の一部は2年前から予約し、入手後、定植までJA施設内で冷蔵保存します。

1月から定植を開始し、8月頃まで時期をずらし順次定植します。定植時期を分散することで、5月から10月まで約半年と長期に及ぶ生産・出荷を維持し、市場の信頼を得ています。1本の茎に7、8輪の花をつけるラジオオラスは、1輪目の花の先端がわずかに見えたら収穫します。球根ごと引き抜き、すぐに球根を切断後、3時間ほど水あげします。坂田さんは「技術の伝承によって生産高は増加している。歴史あるラジオオラスの栽培を後世に伝えるために尽力したい。」と意気込んでいます。

甘藷試験品種付け・定植機試験

東部営農経済センター甘藷部会は5月1日、甘藷の栽培試験のため、選別した14品種の芋ツルを試験圃場に挿苗しました。他産地に負けない色合いや形状・食味を目指し、試験圃場で収穫した甘藷を秋の品種検討会で評価し、来年の試験品種の取捨などを協議する予定です。さらに、5月9日は、伊勢直樹部会長率いる「中セキ歩行型かんしょ移植機」の実演を行い、生産者や支援センターの担当者等が参加しました。

この定植機は、農研機構九州沖縄研究センター、井関農機株式会社、徳島県農林水産総合技術センター等が共同で開発し、昨年6月に発売されたものです。従来の機械より、苗挟持ブラシの改良によって、曲がった芋ツルや太い芋ツルがセットしやすくなり、苗適応性が向上した点の他、様々な改善点が挙げられ、手作業による定植の軽量化への期待が大きく込められています。井関農機株式会社の担当者より、株間の設定方法や機械への苗の設置方法について説明があり、参加者は移植機を使った定植の実演を熱心に見学しました。

ブロッコリー過去最高販売高15億円を突破

5月30日、ブロッコリー統一部会の令和5年度産の販売高が過去最高額の15億円を突破しました。5月30日時点で出荷量は3,986ト、販売総額は15億500万円です。

今年度は秋以降、出荷量が安定しており、他産地の出荷量が低下していたことから例年の約1割高増しで価格が推移していたことに加え、3月以降の全国的な価格の高騰によって販売高増加に拍車がかかりました。例年、春のピークを迎えるゴールデンウィーク明けは、端境期（被覆栽培から露地栽培の出荷の切り替え）となり出荷が落ち込んでいましたが、5月中旬より出荷は最終のピークを迎えました。山本克彦部会長（52）は、「今後も油断せずに万全の品質管理を行いたい。」と話しました。今年度、部会では、生産者183軒で約357トンを出荷しています。

安定収益目指し複合経営若手生産者寺岡さん

北井上事務所管内の寺岡誠介さん（31）は、5月9日、白ねぎの定植を行いました。品種は、「龍翔」で「陽春の宴」で今年は30号を栽培します。主力としてキャベツを10月下旬から6月下旬ごろまで3号栽培する合間、枝豆70号（3月〜8月）との複合経営を行います。

白ねぎは、株の生育段階に応じて定植から収穫まで約4回寄せ作業が必要であり、労力がかかります。湿害を受けやすいため、明渠の設置に加え、プラソイラーで心土破壊、天地返しを行い、圃場の排水対策をしっかり行います。播種から収穫までの栽培期間は8ヶ月（2月下旬〜11月）と長期ですが、計画的に栽培に力を注ぎます。手間がかかるにも関わらず、白ねぎを選定している理由は、在圃性に優れており、さらに収益性が高いという点です。特にキャベツとの作業が重なる時期は白ねぎの収穫を遅らせても、品質に影響しないことに加え、単品よりリスク分散がしやすいことがメリットです。白ねぎの生産者は、同地区で5軒ほどと少ないこともあり、主に情報収集はSNSやインターネットを活用します。特に品種選定、作業方法は非常に参考になっています。SNSで発信者へダイレクトメッセージを送り、栽培に関する質問をすることもよくあります。寺岡さんは、「周りがしないことも自分にとって有益になることであれば迷わず実践し、良いものを作りたい。安定した収益を確保するため、貪欲に様々な知識を身につけたい。」と意欲を燃やします。





5月23日、第26回JAバンク徳島年金友の会グラウンド・ゴルフ大会が、吉野川北岸グラウンド（応神町）で開催されました。JA徳島市からは、160名の方々が出場されました。男女別の個人戦が行われ、男性の部では、渭東事務所管内の重本博さんが第3位に輝きました。詳しい試合結果は下記のとおりです。

男性の部入賞者

- 3位 重本 博さん（渭東）
- 11位 明本 道弘さん（多家良）
- 12位 高橋 忠雄さん（多家良）

女性の部入賞者

- 8位 吉田 フミ子さん（渭東）
- 14位 川上 真澄さん（国府）
- 15位 島 キヌエさん（渭東）
- 20位 棚坂 千代子さん（渭東）

枝豆出荷はじまる



枝豆選別施設では、5月5日に枝豆の初出荷があり選別作業が始まりました。今年産は序盤1月～2月中の播種作業は順調に進みましたが、3月中の播種は降雨の影響を受け、やや作業は遅れ気味になりました。現在（5月中旬取材時）1日あたりの出荷量はほぼ平年並みで、品質・風味は共に良好です。

今年度、枝豆統一部会では、生産者179軒で79.2%を栽培しており、総出荷量は380ト、販売金額3億4,000万円（前年比108%）の販売を目標としています。出荷の最盛期は6月中旬から7月上旬の予定です。

3年前より販売を開始した、JA徳島市の独自ブランド「あわっちゃまめ」は市場からの評価が高く、ブランドとして定着しており、さらなる有利販売をめざします。北部営農経済センター 営農課 藤川真澄課長は「市場からの期待に応えるため、今後5月～6月中の播種を積極的にすすめ、出荷量確保に努めたい。」と意気込んでいます。

営農指導員会を開催



5月27日、本所にて「営農指導員会」が開催され、JA営農指導員、徳島県農林水産部みどり戦略推進課・農林水産総合技術支援センター高度技術支援課・徳島農業支援センター、全農とくしまの担当者が出席しました。

会では、JA担当者が品目ごとの課題および今後のビジョンについての項目をあげ、それに向けた対策・方針を発表しました。それに対し、県担当者へそれぞれの立場からの意見等を求め、協議が行われました。

ほとんどの品目における共通課題として、病害虫の被害の発生による収量減少、高齢化による栽培面積の減少があげられました。これらへの対策・方針として、関連機関と引き続き連携し、栽培技術向上による対策の確立を図ること、さらに高齢化に合わせた省力化を目指し、JAとして今までとは違った角度からも農業振興促進に向けた取り組みを進め、生産力向上を図ることが提案されました。

一部品目では、高付加価値を目指すため、市場集約を図ることを検討していますが、物流の2024年問題における課題にも繋がり、早急に対策を実行すべきとの声もありました。

岩井公章常務は、「農家所得向上を図るため営農振興計画の策定に努めたい。」と話しました。

青壮年部が田植え体験教室

5月29日、加茂名小学校5年生の70名の児童が加茂名支所 青壮年部の佐野孝夫さんと原田彦さんの指導のもと、田植えを体験しました。

毎年、あきさかりを無農薬で栽培しており、夏の除草等の管理作業は佐野さんが行っています。前日の大雨によって水田の水高は増しており児童は足を取られながらも必死に作業を行いました。佐野さんは「体験の中で転んだり、大変だったことは児童の記憶に鮮明に残ると思う。農業体験で培った経験が、児童にとってこれから直面する様々な壁を乗り越えるための糧となれば非常に嬉しい。」と話しました。



近年、台風をはじめとする気象災害が頻発しており、農業にも甚大な被害を与えています。

台風は7月から10月にかけて最も多く発生し、年間約12個の台風が接近、約3個が日本に上陸しています。

今後、農作物や施設が台風被害に遭わないために、早めの対策が重要です。



茎が折れたレンコン



ハウスの倒壊
出典：農水省HPより



浸水したブロッコリー



浸水したハウス
出典：農水省HPより

近年の台風発生状況

2023年の台風接近数は9個で、上陸した台風は1個のみでした。

一方で、2018年の接近数は16個と多く、2019年には台風15号と19号が猛烈な風や雨を記録し、農作物だけでなく家屋の損壊、死傷者を多数出しました。

また、2017年の台風5号は、発生から消滅するまでが19日間となり、観測史上2位の長寿台風となりました。



令和元年東日本台風（2019年10月）

平常時

台風接近前

台風通過後

台風接近前の対策が最も重要！

施設のメンテナンス

- ・ボルトの緩みやパイプの腐食がないかを確認する。
- ・ハウス補強のため、筋かいやタイバーを設置する。
(風速 約30m/s 以上で大きな被害が発生)



周辺環境の整備

- ・飛ばされる恐れがあるものは、固定するか片付ける。
- ・早期に排水するよう、溝切りや畝立等を行う。
- ・排水路や排水溝の整備・清掃を行い、長期間冠水しないようにする。
- ・露地ナス等では防風ネットを強固に設置しておく。
- ・なし、ぶどう等の棚栽培は、支柱等を設置して落果や擦傷を防止する。

農業保険への加入

- ・ハウス本体は園芸施設共済に、農作物は収入保険に加入するのが望ましい。

台風情報を収集

- ・気象庁HPで、最新の台風情報を確認する。
(進路、勢力、暴風域、風速、降雨量等)



事前対策

- ・茎や枝を支柱や誘引線にしっかりと固定する。
- ・ハウスの被覆材のたるみや破れを修復する。
- ・ハウスを密閉し、換気扇を作動させる。
- ・病害予防のために、殺菌剤を散布する。
(イチゴ炭そ病や、ナス褐色腐敗病等)
- ・ブロッコリーやイチゴ苗等では、寒冷紗等でべたがけ被覆する。

収穫可能な農作物は、台風襲来前に収穫する

- ・ナス等の果菜類はMサイズ以上の果実は収穫しておく。

襲来時は身の安全のため外出を控える

通過後

被害状況の確認

- ・早急に施設を見回り、破損があった場合は補修する。
※用水路の増水に注意する。

事後対策

- ・倒伏している場合は、土寄せする。
- ・ハウス内が浸水した場合、換気し土壌を乾燥させる。
- ・ほ場内の停滞水は、速やかに排水する。
(根傷み・病気の原因となる)
- ・殺菌剤の散布を行い、病害の発生を抑制する。
- ・肥料の流亡が考えられる場合は、樹勢回復後に肥料を追肥する。
- ・ナス等の果菜類は、風雨害による傷ついた葉や果実を取り除く。

「佐那のいちご塾」第2期生に3名が就任



「さくらもいちご」の生産者を目指し、地域おこし協力隊として活動する「佐那のいちご塾生」として4月、第2期生に松田真智子さん(51)、佐々木達也さん(36)、定作龍馬さん(23)が就任しました。

現在、「さくらもいちご」は、19戸の生産者で約58トンを出荷しています。近年、村の人口減少・高齢化の影響により担い手の確保が課題となっており、対策として「さくらもいちご栽培振興プロジェクト」を立ち上げ、毎年「いちご塾生(地域おこし協力隊)」を募集、育成します。

松田さんは、就任前は愛知県瀬戸市で教育機関の補助員を務めていました。地方移住をしたいと思い、移住先と仕事を探していたところ、塾生の募集を知り応募しました。移住して松田さんは「村の近隣の方がすごく気にかけてくださる。静かで住み心地は非常に良い。」と笑顔で話しています。

5月中、3名は主に各研修先の農家で収穫作業、加工用いちごの下処理作業等を行っています。佐々木さんは、「初めてのことばかりで、毎日が新鮮。研修先の方が昨年から大切に育てたいちごを扱わせていただいているので責任があるが、しっかり学びたい。」と話します。

今後3名の塾生は2年間の任期中、研修先での農業実習、農業大学校アグリビジネスアカデミーの受講、別品目の農作業や地域活性化に関する支援活動などを行い、任期満了後に新規就農を目指します。定作さんは「さくらもいちご農家として、一人の戦力になれるよう努力したい。」佐々木さんは「部会の皆さんが守ってきたブランドと一緒に維持できるように尽力したい。」と意欲を燃やしています。

(写真は、左前列・松田さん、左後列・定作さん、右前列・佐々木さん、右中央・栗坂部会長、右後列・日下副部会長)

お知らせ

相談

●島田清弁護士無料法律相談

【日時】第3土曜日 9:00 ~ 12:00

【申込先】金融共済部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-8003

【場所】本所1階金融相談室

●賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

【日時】7/2(火)、7/23(火)、7/30(火)
9:30 ~ 15:00

【申込先】総務部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-6335

【場所】本所1階金融相談室

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。これまで糖尿病の治療に関する薬剤のうち最近主流となっているものについて説明してきましたが、今回は以前よく使われていたため今も継続されている可能性のあるお薬について列挙します。

1. α-グルコシダーゼ阻害薬：腸での糖の吸収を遅らせることにより食後の急激な血糖値の上昇を抑える薬：摂取した糖質はα-グルコシダーゼという酵素によってブドウ糖へと分解され、血管に吸収されて血糖値が上昇します。食後の急激な血糖値の上昇は糖尿病の合併症を引き起こす要因のひとつとされていますが、本剤はα-グルコシダーゼを阻害することで、糖の吸収を遅らせ食後の急激な血糖値の上昇を抑えます。通常、食直前（一般的には、食事を摂る前の10分以内）に服用します。
2. スルホニル尿素（SU）薬：膵臓の細胞に作用し、膵臓からのインスリン分泌を促し血糖値を下げる薬。本剤は膵臓β細胞のスルホニルウレア受容体（SU受容体）に結合してインスリン分泌を促します。インスリンは血糖値を下げるホルモンで、膵臓のβ細胞から分泌されます。このお薬は従来日本で広く使用されてきましたが、遷延性の低血糖を生じる危険性があること、体重増加を来すこと、そして心血管病変を抑制するエビデンスがないことが判りました。SU薬による低血糖は特に高齢者・腎機能障害のある場合に長時間作用型のグリベングラミド（オイグルコン）・グリメピリド（アマリール）で起こりやすいとされています。最も強力な血糖降下作用があるグリベングラミドは、もはや使用を避けるべきSU薬です。SU薬の使用が必要な場合最近では、グリクラジド（グリメピリド）がよく使われています。
3. グリニド薬：服用後にすばやくインスリンを分泌させ食後の高血糖を改善する薬：食事後の高血糖状態が続くと体に対し毒性を示すようになり糖尿病の合併症へつながりますが、本剤は服用後すばやく膵臓に作用しインスリン分泌を促す作用をもっています。通常は食直前（一般的には食事を摂る前の10分以内）に服用します。本剤は、速やかなインスリン分泌促進作用を有しますが、その作用点はSU剤と同じであるためSU剤との併用は不可とされています。
4. チアゾリジン薬：インスリン抵抗性を改善することで、筋肉組織及び脂肪組織における糖の取り込み・利用を促進し、肝臓からの糖放出を抑制することで血糖値を改善する薬：糖尿病患者は高血糖状態であり、その原因として血糖を下げるインスリンが効きにくくなっている場合があります。インスリン抵抗性が増えると筋肉組織や脂肪組織における糖の取り込みや糖の利用が低下し、血糖が上がりがやすくなりますし、肝臓からの糖放出が増え血糖が上がりがやすくなります。本剤による特徴的な副作用にむくみや体重増加がありますが、特に重大な副作用として心不全（頻度不明）があります。そのため、むくみや急激な体重増加、心不全徴候（息切れ、動悸、等）がみられた場合には投与を中止し、必要ならただちに適切な処置を行うこと、特に心不全発症のおそれのある心疾患の患者に投与する際やインスリンと併用する際には、心不全の徴候に注意することとされています。

理事会だより

令和6年5月9日

【臨時理事会】

協議事項

- (1) 代表理事常務の追加選任および常勤理事について
 - ① 代表理事かつ常務理事の選任について（可決）
 - ② 常勤理事について（可決）

令和6年5月31日

協議事項

- (1) 徳島県農業信用基金協会への出資金増資について（可決）

- (2) 共済規程の一部変更について（可決）
- (3) 第55年度通常総代会資料（剰余金処分案含む）（可決）付帯決議
 - 第55年度通常総代会開催までの間、本資料の記載内容に軽微な修正※が必要となった場合には、その処理を組合長に一任する。
 - ※内容の同一性を損なわない文章表現や計算違い、誤記、誤植又は脱字など。
- (4) 令和6年度信用供与等の限度額について（可決）
- (5) 不良債権の処理に関する方針について（可決）
- (6) 3億円超の信用の供与について（可決）

報告事項

- (1) 令和5年度税効果会計繰延税金資産の計上について
- (2) 令和5年度資産査定結果報告について
- (3) 令和5年度エリア部門別損益について
- (4) 令和5年度決算における独立監査人の監査報告書について
- (5) 第55年度監事監査報告書について
- (6) 令和5年度末監事監査における監査意見書について
- (7) 内部監査の品質に関する内部評価報告書について
- (8) 債権回収について
- (9) マネロン・テロ資金供与対策に関する取組状況について
- (10) 理事会決議事項処理状況報告

堆肥運搬賃改定のお知らせ

農産工場では、自工場内、果樹選果場で排出される果実の残渣を堆肥化し、利用者が指定する圃場や園地へ有料にて運搬致しております。近年、搾汁後の果皮を副産物とする加工品材料として外部へ販売していることもあり、堆肥自体の生産量は減少しておりますが、施設の維持管理費や生産コストの高騰から、このたび令和6年10月より運搬賃を改定させていただくこととなりました。また、お支払い方法につきましては、現行の現金のお支払いから、今後は口座引き落としのみの取り扱いとさせていただきます。何卒ご理解、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

○利用者運搬賃	現行 1,000円/2tダンプ1車（税込）
	改定後 1,500円/2tダンプ1車（税込）
○改定日	令和6年10月1日 運搬分より

JAバンクからの大切なお知らせ



ATMなどのサービスを一時休止させていただきます。

いつもJAバンクをご利用いただきありがとうございます。このたびJAバンクはお客様へのサービスや利便性の向上を目的としたシステム更改に伴い、誠に勝手ながらATM・JAネットバンク等のサービスを一時休止させていただきます。ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

休止日

2024年
(令和6年)

7月14日

日曜日

全取引休止
6:30-9:00

7月15日

月曜日・祝日

一部取引休止
0:00-24:00

8月17日

土曜日

全取引休止
21:00-翌8:00

すべてのサービスが休止 県内JAのATMとJAネットバンクサービスはご利用可能

休止するサービス



現金のお引き出しはお早めに。

お客様にご不便をおかけし誠に申し訳ございませんが、あらかじめ現金をお引き出しいただく等のご準備をお願い申し上げます。

※JA・店舗・ATM・提携金融機関によっては、ご利用可能日、ご利用可能時間およびご利用可能サービスが異なるため、上記スケジュール以外にもサービスをご利用いただけない場合がございます。詳しくは、JA窓口・ホームページ等でご確認ください。